



再創造のストーリーの型

聖書の筋書きの基本型

聖書の筋書きの基本型 (ストーリー)		1. 7 days	3. 7 weeks	40.	7. 7 months
記念	イスラエル三大祭 レビ23: 申16:	過越	五旬節	(4か月)	仮庵
出来事	出エジプトへ約束地	出エジプト	律法授受	荒野	約束地
テーマ	御国の勝利の物語	脱出	恵み	戦い	平和
外	神が子を生む。 子が子を生む。 (3と事が、3と家族は恵み)	父が戦って 子と連れ出す。 (子とされる)	父が宝を与える (相続の最上部分 新しい武器・戦術)	子が戦って 子と戦い入る。 (愛を知る)	子がすべてを受け。 (約束のもの)
内	キリストに信じる者と通はれ 信じる者に与えられたい	義とされる。 (信仰による)	聖とされる。 (愛を知る)	戦ておる者が試される。 (信仰を試される)	聖とされる者が明らかになる。 (愛が満ちる)
約束	アダムとエバの契約	神の似姿を創る	祝福の命令とば	地を焼きよ	地を満ちせ

英雄	(外)	戦い	40	1	子	子
自己犠牲	(内)	信(仰)	40	1	子	子
勇気・勝利	(外)	戦い	40	1	子	子
国をつくる	(内)	信(仰)	40	1	子	子

聖書のストーリーには基本型があります。聖書の筋書き、あらすじには基本型があるということは何度も見ていますけれど、イスラエルの三大祭りがその基本型を表しています。過越の祭り、五旬節、仮庵の祭り。五旬節と仮庵の祭りの間が4ヶ月ということで、1、3、40、7というように書いてあります。最初の7日間、そして7週、7ヶ月というところに祭りがあります。

記念	イスラエル三大祭 レビ23: 申16:	過越	五旬節	(4か月)	仮庵
出来事	出エジプトへ約束地	出エジプト	律法授受	荒野	約束地

その祭りは、レビ記23章、申命記16章に書いてありますが、元は出エジプトの出来事を記念しているものです。エジプトから出て約束の地に入るまでが元になっているものです。出エジプト、律法が与えられること、荒野で歩むこと、約束の地に入ることが歴史の大きな流れ、その基本型、救いのストーリー、再創造、民を作る創造のストーリーの基本的な流れです。

出来事	出エジプト→約束地	出エジプト	律法授受	荒野	約束地
テーマ	御国の勝利の物語: 脱出	恵み	戦い	平和	平和

どういうテーマなのかというと、御国の勝利の物語であるこの救いのストーリーは最初に脱出、次に恵みが与えられ、戦いがある、平和に至るとというのがテーマになっています。

外	神が子を生む。 子が子らを生む。 (子と妻が: 子と妻に導く)	父が戦って 子と連れ出す。 (子とされる)	父が宝と与える (相続の最上部分 新しい武器・特権)	子が戦って 子らと戦い入る。 (約束の地)	子らがすべてを受ける。 (約束の地)
内	キリストに似た者と選ばれ 似た者に変えられていく (信仰による)	義とされる。 (愛を知る)	聖とされる。 (愛を知る)	舞で喜ぶことが許される。 (信仰が滅びる)	聖で喜ぶことが明らかにされる。 (愛が満ちる)

その各フェーズの1、3、40、7という段階を追っていきますけれど、それぞれの段階で対立があったり、勝利があったりするわけです。ここで外と内というふうに書いてあります。外と書いてあるのは、その人の外側との戦い、内と書いてあるのは内側の戦いということになります。

外	神が子を生む。 子が子らを生む。 (子と妻が: 子と妻に導く)	父が戦って 子と連れ出す。 (子とされる)	父が宝と与える (相続の最上部分 新しい武器・特権)	子が戦って 子らと戦い入る。 (約束の地)	子らがすべてを受ける。 (約束の地)
---	---------------------------------------	-----------------------------	----------------------------------	-----------------------------	-----------------------

外側のほうで見ると、神様が子を生む、子が子らを生む、子が家族を生んで妻と家族が増えていくということです。最初に父が戦って子と連れ出す、子とされるというのが過越の話です。

次に律法が与えられる。これは、父が宝物を与えてくれる。子になりましたので、相続をもらえるのですけれど、その一番良い部分を頂いている、氷山の一角のような一番良いところを頂いている。それは、全部をもらえるという証明です。父が戦いの武器、特権を与えるというのが、3のところでは、

その与えられた宝、武器を持って子は戦う。子は戦って妻と子らを導き出すということをやります。

そして、最後に子供達、家族、子とその妻は、約束のものをすべてを相続する。3のところでは、宝をもらったのですけれど、7のところでは、全部もらっているということで終わります。

内	キリストに似た者と選ばれ 似た者に変えられていく (信仰による)	義とされる。 (愛を知る)	聖とされる。 (愛を知る)	舞で喜ぶことが許される。 (信仰が滅びる)	聖で喜ぶことが明らかにされる。 (愛が満ちる)
---	--	------------------	------------------	--------------------------	----------------------------

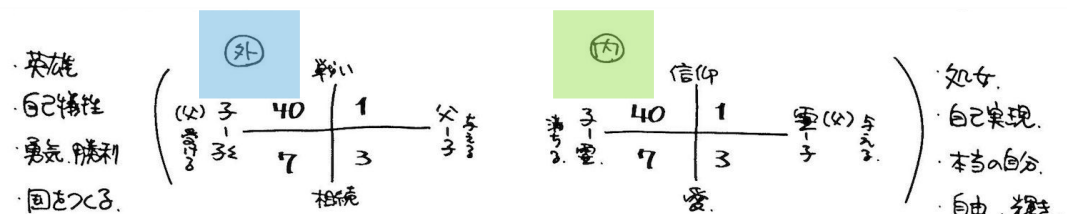
内なる戦いを見ると、それは、キリストに似た者と選ばれて、似た者に更に変えられていく、栄光化する、輝く勝利に至るということですが、最初のところは、信仰によって義とされる、信仰の戦いで義と認められる、子とされる。

3のところでは聖とされる。子どもとされることには二つあって、義と認められることと、聖いものを頂けるものというこの二つが最初です。愛を知る。信仰によって義と

されて聖なるものとされて愛を与えられる、御霊が与えられる、みことばが与えられるということは聖とされるということです。

そして、頂いたもの、子どもとされて聖とされましたから、本当に義とされているのかを試される、信仰が試されるのが、40のところです。

それで合格する。最後の戦いで合格すると聖であることが明らかにされて、聖い民であることが明らかにされて、愛が満ちあふれるというのが内なる戦いのところです。



もう一度、下の表を見ると、内なる戦いと外の戦いというふうに書いてありますけれど、父が子に与える、そして子が父に導かれて、子らと共に相続するという「戦い」と「相続」、それが外のほうです。

内のほうは父が子に御霊を与えて、子は御霊で満ち足りる、満ちあふれる、更にそこから御霊が流れ出るといことです。それが「信仰」と「愛」の戦いであるというのが内というほうです。

英雄の物語と処女の物語という物語学的な分類で見ると、外というのは、外と戦う英雄です。自己犠牲が力になって勇気を持って勝利を得て国を作っていくということ(物語)です。

処女のストーリーというのは、自分の内側です。自己実現、本当の自分になる、そして輝く。本当の自分になるというのは、自分の可能性を一番引き出して輝くものとなるというのがこちらの物語です。

イスラエルの三大祭りの中に、英雄のストーリーと処女のストーリーが両方流れていて、それぞれ勝利と栄光のために導かれているストーリーだということがわかると思います。